

様式第 3

会 議 録

会 議 名	令和 3 年度第 3 回野田市行政改革推進委員会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 パブリック・コメント手続の結果について(公開) 2 野田市行政改革大綱の一部見直しについて(答 申)(公開)
日 時	令和 4 年 2 月 4 日(金) 午前 10 時から午前 10 時 40 分まで
場 所	市役所低層棟 4 階 委員会室
出席者氏名	会 長 山本和也 副会長 谷田貝しづ子 委 員 大澤一秋、岡安誠人、関寛之、原智宏、横川 しげ子 事務局 鈴木有(市長)、今村繁(副市長)、染谷篤 (教育長)、中沢哲夫(水道事業管理者)、 宮前雅明(建設局長)、上原正夫(市政推進 室長)、生嶋浩幸(企画財政部長)、宮澤一 弥(総務部長)、牛島修二(市民生活部長)、宇田 川克巳(自然経済推進部長)、坂齊和実(土木部 長)、直井誠(保健福祉部長)、平野紀幸(児童 家庭部長)、山下敏也(教育次長兼生涯学習部長)、 下川泰弘(学校教育部長)、渡會真奈美(広報 広聴課長)、大久保貞則(総務部次長兼総務 課長)、代田明洋(行政管理課長)、森下元博(市 民生活部次長兼防災安全課長)、海老原孝雄(商 工観光課長)、戸邊卓哉(魅力推進課長)、善 方浩子(高齢者支援課長)、渡邊宏治(介護 保険課長)、池田亜由美(保健センター長)、 戸塚進(生涯学習部次長兼教育総務課長)、 小島修次(保健センター長補佐兼関宿保健セ ンター長兼子ども支援室長)、岩澤正之(行政 管理課長補佐)、平出知之(行政管理課事務管理 係長)、水越紀秀(行政管理課事務管理係主任主 事)、田村和樹(行政管理課事務管理係主任主事)

欠席委員氏名	染谷よし江、松本純子、望月秀嗣
傍聴者	1名
議事	第3回野田市行政改革推進委員会の会議結果（概要）は、次のとおりである。
行政管理課長補佐	令和4年2月4日午前10時、開会を宣言し、会議の成立について報告した。
行政管理課長補佐	会議の公開及び傍聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明した。
行政管理課長補佐	会議録作成のため録音機を使用することについて了解を得た。
山本会長	会長の挨拶を求める。
行政管理課長補佐	<挨拶>
山本会長	議事進行を山本会長に依頼する。
山本会長	議題1 パブリック・コメント手続の結果について
山本会長	パブリック・コメント手続の結果の内容について、事務局に説明を求める。
行政管理課長	<資料に基づきパブリック・コメント手続の結果についての内容を説明>
山本会長	パブリック・コメント手続の結果の内容について、質疑及び意見を求める。
大澤委員	2ページ項目6番の市の考え方の記述で意見がある。
大澤委員	記述の中に連携を行ってまいりますと書いてあるが、私の理解では、広報戦略室と市政推進室の役割は異なるので、日常的な連携はないのではないかと思っている。要は広報戦略室も市政推進室も市長直轄の部門ということで、組織横断的に口を出しやすくするという目的があるのではないかと思う。元々広報戦略室と市政推進室で、そのもののミッションの範囲で他の部署と連携していくことが当たり前だと思う。よほどのことがない限り、広報戦略室と市政推進室が連携することは余り思い浮かばない。市の考え方で示すべきは、それぞれがどういうスタンスで仕事をしていくことを示す方が良いのではないかと思う。
行政管理課長	御意見のとおりである。市政推進室については、部局横断的に複数の部や外局も含めて調整していく部

副市長

門である。新しくできる広報戦略室は、室長と職員のみフラットな組織として、これまでの組織の概念を打ち破るような新しい組織ということで、市の行政情報、観光等に係る魅力発信を行っていく。具体的な連携については中々ないと思うが、有事については、確実に市政推進室が横断的に入って仕事をさせていくということからこういった表記とした。

連携の話だが、市の考え方について両方の役割を明確に述べさせていただく。

市政推進室については、縦割ということもあり、市長まで情報が届かないということがあったので、市政推進室が直接的に関係部局間の調整を行い、それによってスピード、突貫、迅速に対応していきたいという目的で設置した。

広報戦略室については、行政管理課長が申し上げたように、市の魅力を情報発信していくときに、課が三つに分かれており、中々連携が取れていないところがあるので一つの部署とした。

魅力推進課、商工観光課の観光の部分、広報広聴課の広報の部分におけるこれまでの課題として、それぞれの担当部局から本来情報発信すべき課題が挙がってこない面があった。市報の面でも担当がそれぞれの部局に、今回の市報にはどういう記事を載せるのか、記者会見にはどういうプレス発表をすれば良いのかということ照会しているが、それについて積極的な回答が得られないところが課題であった。市政推進室はそういった調整も行い、部局間の連携とスピード化を図る。広報担当に「この案件は現在、市政推進室で調整しているので是非発信していきたい。」という情報を提供するなど、そういった日常的な連携も必要ではないかということで連携という言葉を使わせていただいた。理由については、大澤委員の御意見の通り、前段で加えさせていただく。

大澤委員

今まで各部局から広報すべきことが挙がってきかなかったということについて、そこに気が付いていただけて非常に良かったと思う。

	<p>今年度、魅力発信事業を採択していただき、携わった経験で感じたことは、魅力発信は市の職員全員の仕事だと強く思う。先ほど副市長が答弁された点については、非常に良かったと思うので、是非、新しくできる組織が中心となり、市の職員全員が、自分の仕事を発信して宣伝するのだという意識で取り組んでいただきたい。</p>
<p>関 委 員</p>	<p>1 ページ項目 1 番で、当面は野田市観光基本計画の策定は行わない方針とある。</p>
	<p>野田市の人口は、2020年の国勢調査でマイナスとなったことを踏まえると、定住人口をいかに維持していくかが大きな課題であるとともに、交流人口いわゆる観光、関係人口の層にいかにアプローチしていくかについて重要性が高まってくると思う。</p>
	<p>また、コロナ禍ということもあり、マイクロツーリズムという地元で楽しむ観光という考え方も出てきている。市民の方が市内でレジャーを楽しみ、お金を落としていただくという発想もあると思うので、基本計画を策定するかについてはひとまず置いておくとしても、観光の視点は重要であると思うので、今後の施策事業の中で取り組んでいただきたいと感じた。</p>
<p>副 市 長</p>	<p>観光については重要な課題であり、観光基本計画の策定を当面行わないと記載したのは、市が計画というものを作成すると、どうしても長期計画ということで、計画を作ることに職員が専念してしまうことがある。臨時的・実験的な組織として、発想を自由に、計画を作るよりもまずは実践し、軌道に乗ってきた段階で計画についても考えていかなければならないと考えている。</p>
<p>山 本 会 長</p>	<p>他の意見を求めるが、意見無しであったため、パブリック・コメント手続の結果については、大澤委員から御意見のあった項目 6 番の市政推進室と広報戦略室の関係について、事務局案に修正を加えるということを問う。</p>
<p>山 本 会 長</p>	<p><異議無し> 異議がないことを確認し、諮問に対し、原案のとおり</p>

山 本 会 長	り答申することを決定する。 答申書作成のために暫時休憩とした。 再開を宣言し、各委員に配布した答申書の写しの確認を求めた。
各 委 員	答申書の内容を確認。
山 本 会 長	諮問に対して答申を行うことを宣言し、答申書を読み上げ、答申書を市長に手交する。
市 長	<答申に対する謝辞>
山 本 会 長	その他、連絡事項の有無を事務局に問う。
行 政 管 理 課 長	<今後の予定をお知らせする。>
山 本 会 長	午前10時40分、閉会を宣言した。
	以上